

〔下學集〕下器唐櫃カラヒツ

〔類聚名物考〕調度七からふと 韓櫃。

からひつを音便にてからふといふ、比叡山より近江へ越る山路をもからふとごえともいふなり、折櫃を音便にてをりうづといふが如し、フとウとはつねにかようことばなり、入る物は何といふ定めもなし、あらゆるもの皆入しこと見ゆ。

〔貞丈雜記〕調度一唐櫃カラヒツに二品あり、長からひつと荷カひからひつ也、長からひつは長持の

如く長し、是は一ツを貳人してかづく也、荷からひつは長唐びつの半分にて短し、是は二ツを棒の両方にかけて、壹人して荷ふ也、何れも唐櫃には足六本あり、笈の足の如し、小袖、鏡、其外何にて一土佐國安喜郡東寺は、弘法大師開基也、其寺に大般若經を荷唐櫃に納めたり、其唐櫃寸尺如左、ふた横壹尺八寸但めん、同深サ貳寸六分半但内、身總脇壹尺壹寸壹分、高サ壹尺五寸八分、足高サ壹尺六寸八分。

總體赤漆也、春慶塗の如し、きちやうめん黒し、いかにも古物也と云、

一唐櫃には何れも棒通しの金物なき也、緒を以て棒にか、げ付る也、然れどもあやうき故、中比より金物を打也、常に座敷などに置には、金物の棒通しあるはあし、

〔延喜式〕二十四凡諸國輸庸壹岐對馬等島二丁白木韓櫃一合、長五尺以下四尺五寸以上、廣二尺三寸、厚一寸二分、從櫃底至櫃表裏皆赤漆、四丁塗漆著鏤韓櫃一合、

專常郡司名、三丁塗漆韓櫃一合、長三尺四寸、廣三尺二寸四分、廣二寸三分、厚一寸、深一尺四寸、板厚一寸五分、緣端出二分、廉取六分、櫃表裏皆赤漆、四角及緣手取黒漆、四丁塗漆著鏤韓櫃一合、

伊賀國略中 庸、白木韓櫃九合、伊勢國略中 庸、韓櫃廿三合、塗漆著鏤八合、白木十五合、

〔禁秘御抄〕上殿上

簡、有袋、朱辛櫃横敷前在硯、